



No.6 1

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

March 10, 2013

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

「生態水文学研究所創立 90 周年記念シンポジウムを主催」

生態水文学研究所

2012 年 12 月 1 日、生態水文学研究所の創立 90 周年記念シンポジウム「はげ山の緑化と森林の再生—森林の未来に向けて大学の果たす役割—」を、瀬戸市（愛知県）にて開催し、全国から、研究者、行政担当者、一般市民など約 200 名の方々に来場いただきました。太田猛彦・本学名誉教授による基調講演では、かつては至る所にあった「はげ山」がほとんど無くなった現代の

日本における、森林や国土に関する新たな問題を整理していただき、その問題解決に対して、大学の果たすべき役割についてお話をいただきました。その後、研究所アドバイザーである鷺谷いづみ教授（生圏システム学専攻）による生物多様性保全に関する講演、研究所職員による最新の研究成果の紹介、研究所と地域との協働事例の紹介等を通して、シンポジウムのテーマについて議論を深めました。



来賓である大村秀章・愛知県知事によるご挨拶

冬の恒例イベント ～第8回 影森祭～

秩父演習林

2012年12月9日（日）、第8回目となる影森祭を開催しました。毎年恒例のミニ門松・リース・干支のクラフトの製作体験では、演習林内で集められた様々な木の実などの材料を使い、作品作りを楽しんでいただきました。来場して下さった方からは「良いお正月が迎えられそう」「木の実がいっぱいで面白い」などの嬉しい声も。秩父演習林サポーターしおじの会の会員手作りの野菜やペーパーナイフ、どんぐりゴマなどが並んだフリーマーケットも大好評。青空の中響きわたる、演習林利用者が所属するフォルクローレグループの生演奏も、影森祭を盛り上げてくれました。



「へびって、どうやって作るの？」

温室特別公開日で アロマキャンドル作り体験

樹芸研究所

樹芸研究所では12月12日と15日に、今年度の第5・6回温室特別公開を実施しました。



ユーカリの蒸留の様子を見学する参加者

2日間あわせて27名の地域の方々に参加いただきました。温室特別公開では温室植物ガイドに加え、熱帯・亜熱帯の樹芸植物を用いた様々なアクティビティーを一般に向けて発信しています。今回は香料植物をテーマとしました。青野研究林に植栽したユーカリの葉を水蒸気蒸留して精油成分を取り出し、ろうに加え、アロマキャンドル作りを行いました。クリスマス前にちょうど良いお土産になったでしょうか。なお、温室は通年一般に公開しており自由にご覧いただけます。

16名の中学生を 職場体験で受け入れました

田無演習林

田無演習林では近隣の中学校から職場体験を受け入れています。職場体験とは「職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動」です。受入数は増加傾向にあつて、2012年度は4校16名の生徒が苗の堀取り、散策路整備、薪割り、案内板作成などの業務を体験しました。体験の新鮮さからか、生徒たちも満足して帰っていきます。休日公開にあわせてお礼に訪ねてきてくれたこともありました。我々教職員にとっても中学生の目を通して業務を見つめ直すよい機会になり励みにもなるので、今後とも職場体験を受け入れ続けたいと考えています。



大雪で折れた枝の片付けをする下里中学校の生徒

フットパスとは歩くための小径のことです。公園や森の中に作られた散策路などももちろんフットパスと言えますが、農地や森林、都市や住宅地も含めて多様な空間を結んでいるオープンなものをとくにフットパスと呼んでいます。フットパスが充実している英国では「歩く権利法」というものがあり、昔から歩行に供されていた私有地を誰でも歩くことができる権利が保障されています。富士癒しの森研究所の職員研修として、昨年10月に国内のフットパス先進地域である北海道を訪れ、5つのフットパスづくりの取り組み事例を見せて頂き、実際に歩いてみました。単独の所有者の森林内に設置した遊歩道があれば、既にある道路と農地や私有地を通るコースを設定したものもあり、取り組んでいる主体も自治会、NPO、地域住民の集まりや個人と様々でした。フットパスを歩く事によって地域の自然・文化に触れることを愉しむことが出来るだけでなく、新しいツーリズムのかたちとそれにとまって生まれる産業、自然環境と一次産業への一般住民による理解が深まること、住民参加の環境整備、プライマリーケアと呼ばれる身近で総合的な医療での活用など多様な価値が生まれる可能性があります。住宅地に隣接する森林に新たな価値を見出し、森林と地域住民との関係をあらためて結び直す一つの方法として、フットパスにこれからも注目していきます。



北海道大学苫小牧研究林が地域に公開している散策道



道内統一デザインで整備されている道標

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください。各演習林にお問い合わせください。

12月	23~25日	全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」☆ (生水研)
1日	24~28日	総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆ (樹芸)
1日	25~28日	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・2」(樹芸)
1~2日	27~3月1日	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」(北海道)
1~2日	3月	
2日	5日~7日	技術職員研修「木質系資源の伝統的活用技術とその教育への応用」(樹芸)
7~8日	8日~13日	全学体験ゼミナール「企画系さらに伊豆に学ぶ2」(樹芸)
9日	25日	富良野地区合同ワークショップ「富良野地方の美しい農山村景観維持のために」(北海道)
11日	4月	
12日	6日	鴨川市共同事業「野鳥の巣箱をつくらう」(巣箱観察)◆(千葉)
13日	20日	教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆(富士)
14日	20日~21日	「春の一般公開」(千葉)
15日	16日	記念樹見学会(生水研)
15~16日	下旬	温室特別公開日(樹芸)
26~27日	5月	
9日	未定	春の散策(仮)(樹芸)
19日	17~18日	春の自由見学日(秩父)
20日	11~12日	全学体験ゼミナール「危険生物の知識」☆(秩父)
9日	25日	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆(秩父)
2013年1月	6月	
9日	1~2日	総合科目「ダムと森林」☆(生水研)
19日	2日	「子ども樹木博士」認定会(田無)
20日	8~9日	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」☆(秩父)
9日	9日	とよた森林学校2013「森林セミナー」森林の持つ公益的機能(生水研)
2013年2月	23日	公開セミナー(北海道)
2日		凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他
2日		
3日		
16日		
17~21日		
18~21日		

ミゾゴイ（溝五位）

コウノトリ目サギ科ミゾゴイ属

学名：*Gorsachius goisagi* (Temminck, 1835)

千葉演習林

主に日本で繁殖する夏鳥で、千葉県のレッドデータブックのランク A(最重要保護生物 種)に分類されています。学名の種小名は *goisagi* (ゴイサギ) ですが、日本で一般に「ゴイサギ」と呼ばれている鳥とは分類学的にも異なる別種です。昔は夜行性と考えられていたため、英名に“Night”が入っていますが、近年の調査では昼行性であることが明らかとなるなど、なにかと「名が体をあらわ」さない興味の尽きない鳥です。千葉演習林でも目撃例が極めて少ない野鳥ですが、その数少ない目撃報告をご紹介します。「早朝の鳥調査に行った帰りがけ、林道に何かがいるのが見え、慌ててカメラを向けました。レンズを覗くとズキュウウンと衝撃が走りました。なんと「ミゾゴイ」との“衝撃的”な出会いです。必死に手振れを抑え、息を止めて1枚、2枚とシャッターを切り3枚目の写真を撮ったその瞬間、彼女は飛び去りました。あまりに突然の出会いだったためか、あるいは息を止めすぎたせいか、しばらく心臓の鼓動がおさまりませんでした。」 その時の写真がここに掲載したものです。



山地の川での水の流れを解明する

秩父演習林 浅野友子

大雨のとき、山地の川では水がどんなふう流れているのか？これは水士砂災害予防において欠かせない情報なのですが、山地の川は傾斜が急で大きな岩がごろごろした複雑な形をしているうえ、大雨時には大きく流れが変化するため測定するのも難しく実態はあまりわかっていません。河川管理の現場では、川底の状態によって水の「流れやすさ」を指標化して洪水予測に用いています。例えばつるつるのすべり台の上から水を流すと水はさーっと流れますが、すべり面に石が敷き詰めてあったら水は石の上で飛び跳ねたり石の合間をぬったりしながら流れます。後者は前者に比べて水が「流れにくい」と表現し、同じ量の水を流しても流れの速度は遅く水深は大きくなります。水の「流れやすさ」はつまり、大雨時の河川の水深や流速、洪水波がやってくるまでにかかる時間に関わる重要な指標なのです。私たちは樹芸研究所青野研究林の河川で、センサーを使って大雨時の水の流れの詳細な観測を行っています。これまでに大雨時に河川では増水にともない川底の状態に変化はなくても水が急激に流れやすくなる実態をとらえることができました。



流速計と水位計で川の流れを測定

浅野他(2012)山地河道における水の流れとマニングの粗度係数の実測、砂防学会誌 65:62-68

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News) 第61号 (No.61)

発行日 平成25年3月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 鈴木雅一

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

編集人 後藤 晋

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp